

## 雨巻山山行報告

【山行日】2019年3月14日(木) 晴れ

【集 合】道の駅「しもつけ」 AM 7:30

【費 用】マイカー1台 : 500円

【メンバー】CL:鈴木ユ 大西、大庭、関、  
五月女、福島、吉田

【コースタイム】道の駅「しもつけ」7:45＝

大川戸登山口 P8:35/8:50～足尾山 9:40～

猪転び坂 10:30/10:40～雨巻山 11:05/11:45～

三登谷山 12:40～大川戸登山口 P13:15/13:25＝

道の駅「ましこ」13:40/14:00＝道の駅「しもつけ」14:35



新人さんのトレーニング山行に、眺望が良く周遊コースで歩ける雨巻山を計画した。

道の駅「しもつけ」を少し遅れて出発し、大川戸登山口の駐車場に着く。駐車場は広く50台位駐車



出来、簡易トイレが3個備わっている。トイレを済ませ準備を整え、ストレッチを済ませて出発する。

大川戸登山口から雨巻山へのコースはいくつかあるが、今回は足尾山沢コースから登り、時計回りで周遊するコースを進むことにした。駐車場を出てすぐ左に曲がり、ピザハウス「茶屋雨巻」の前を通って沢沿いの登山道を進む。すぐに足尾山尾根コースへの道を右に分け、直進するとT字路になり右に沢沿いに登る道を進む。しばらく登ると沢の岩盤を登るようになり、ロープを頼りに慎重に登っ

て行く。清滝への分岐を左に登ると急坂を登るようになり、登り切ると平坦な尾根上に出る。

平坦な尾根を右にわずかに進むと、ベンチが置かれた足尾山山頂に着く。小休止し衣服調整と水分を補給したら御嶽山に向かう。山頂から鞍部まで下り、御嶽山への登りは岩交じりの急登で、今日

のコースの中では一番危険な登りだ。岩稜を登り切ると御嶽山山頂で、四角い大きなベンチがありパイナップルを食べながら展望を楽しむ。

記念写真を撮ったら出発し、小さなアップダウンを繰り返し展望の良い尾根を軽快に歩いて行く。

394.5mピークから下った鞍部で峠コースを右に分け、さらに登って尾根を進むと猪転び坂の急登が待っている。猪転び坂の名のとおり急坂だが、地元の山岳会の方達が整備したお蔭でとても歩き



易い。猪転び坂を登り切った所のベンチで休憩し、伊予柑や菓子を食べてエネルギーを補給する。

ここからも緩やかなアップダウンを繰り返して進み、最後の急坂を登り切ると雨巻山山頂に着く。

山頂は展望が良くベンチやテーブルがいくつも置かれ、先行した登山者が休憩していた。

我々も日当たりが良く展望が良いベンチに陣取り、ここでランチタイムとする。今日の山ご飯の天ぷらうどんと出汁巻き卵を食べていると、お隣のテーブルの方から声が掛かりお惣菜を御馳走していただいた。女性の方は栃木県連の悠々ハイキングクラブの方で、毎週木曜日雨巻山に登ると言っていた。クッキングスクールの先生で、作った料理をタッパーに入れて山頂で皆さんと食べるのを楽しみにしてるようだ。女性の皆さんは美味しいお惣菜をいただいて、作り方を教えてもらっていた。



お腹が満たされたら下山し、三登谷山へ向かって降りて行く。下りは少しゆとりが出たようで、岩コースを下りご機嫌の様子。下りの尾根からは南西から南東方向の眺望が良く、筑波山から加波山や日光連山の景色に感動していた。展望が良いピークに出ると眺望を楽しみ、あれがどこの山などと山座同定を楽しんでいた。三登谷山で最後の展望を楽しみ、この先の小ピークからは樹林帯の道になり、鬱蒼とした杉林の中を降りて行く。下り切って橋を渡ると林道に出て、左に進むと大川戸登山口駐車場に着く。出発時は数台しか車が無かったが、20台以上の車があるので驚いた。靴を履き替えトイレを済ませたら帰路につく。途中、道の駅「ましろ」に寄り、野菜やお土産をゲットする。

我輩は栃木名物の「レモン牛乳」を飲んだが、子供のころの懐かしい味がした。新人の〇庭さんも楽しく登れ、山人クラブの皆さんとすっかり馴染んでくれたようだ。

お腹が満たされたら下山し、三登谷山へ向かって降りて行く。下りは少しゆとりが出たようで、岩コースを下りご機嫌の様子。下りの尾根からは南西から南東方向の眺望が良く、筑波山から加波山や日光連山の景色に感動していた。展望が良いピークに出ると眺望を楽しみ、あれがどこの山などと山座同定を楽しんでいた。三登谷山で最後の展望を楽しみ、この先の小ピークからは樹林帯の道になり、鬱蒼とした杉林の中を降りて行く。下り切って橋を渡ると林道に出て、左に進むと大川戸登山口駐車場に着く。出発時は数台しか車が無かったが、20台以上の車があるので驚いた。靴を履き替えトイレを済ませたら帰路につく。途中、道の駅「ましろ」に寄り、野菜やお土産をゲットする。



我輩は栃木名物の「レモン牛乳」を飲んだが、子供のころの懐かしい味がした。

新人の〇庭さんも楽しく登れ、山人クラブの皆さんとすっかり馴染んでくれたようだ。